

# ミッション実現のためのマテリアリティ(重要課題)

## 01 気候変動への対応が差し迫る

持続不可能な状態をもたらす国内外の社会課題は様々です。2023年には世界の平均気温が軒並み史上最高を観測し、地球温暖化よりも深刻な地球沸騰の時代が到来したと話題になりました。我々を取り巻く外部環境も大きく流れが変わっています。

## 02 カーボンニュートラル2050達成に向けて

気候変動への対応として、社会からカーボンニュートラルへの要請にますます拍車がかかることが予想されます。カーボンニュートラルを実現するためには、経済活動の電化と使用電力の再エネ化に加え、サーキュラーエコノミーによって製品の製造・使用・廃棄といったライフサイクルを見直し、意図的に再設計することが求められています。

## 03 サーキュラーエコノミーを拡げていくために

エンビプログループが目指すのは「あらゆるもののいのちを活かして使い回す」サステナブルな社会です。当社グループではRE100を推進し、鉄スクラップをはじめ、経済活動の電化を支えるために必要な非鉄金属・レアメタルなどのグリーンマテリアル<sup>※4</sup>を生産しています。生産したグリーンマテリアルを動脈の調達・製造プロセスにつないでいくことでサーキュラーエコノミーを実現し、製品や素材の価値を高い状態のまま流通・循環し続けるためのサプライチェーン構築を目指しています。サーキュラーエコノミー関連市場は、国内外で今後大幅に拡大が見込まれ、日本国内では2030年に80兆円、2050年には120兆円を目指すと言われています。

**エンビプログループを取り巻く社会の潮流**

**長期トレンド**

**GX**

GREEN TRANSFORMATION

グリーン  
トランスフォーメーション

**DX**

DIGITAL TRANSFORMATION

デジタル  
トランスフォーメーション

**中期・短期トレンド**

- グリーンバリューチェーン構築の要請
- 国際資源獲得競争の高まり
- 廃プラスチックに関連した社会課題の表面化
- 非ITビジネスにおけるデータ活用
- IoT, AI, Robotics活用事例の増加
- 人材獲得競争の高まり

**温室効果ガス排出の全体像：見過ごされている排出に取り組む<sup>※1</sup>**

主要排出源、鉄鋼、アルミニウム、セメント、プラスチック、食品

現在の総排出量

2050年の総排出量削減量

45% サークュラーエコノミー

55% エネルギー

45% 製品

55% 新技術、CCS、食の変化

ゼロエミッション

エレン・マッカーサー財団<sup>※2</sup>によると、温室効果ガス全排出量のうち、再エネ化によって削減できる排出量は55%であり、残りの45%は製品の製造と使用に関連するものであるとされています。この45%の排出量削減は、サーキュラーエコノミーによって取り組むことができると言われています。日本では、温室効果ガス全排出量のうち、資源循環の取り組みにより、温室効果ガス削減に貢献できる余地がある部門の割合は約36%という試算もされています<sup>※3</sup>。

**サーキュラーエコノミーをリードする企業としてマテリアリティ(重要課題)を特定**

テーマ	マテリアリティ(重要課題)	対応するSDGsの目標
グリーンマテリアルの生産	<p><b>サプライチェーンにおけるグリーンマテリアルの需要増加</b></p> <p>① 電炉増設による鉄スクラップの需要増加 ② 電化による非鉄金属・レアメタルの需要増加 ③ 廃プラスチックの高度な資源循環促進</p>	
生産性・DX	<p><b>生産プロセスにおける省人化、事業活動におけるデータ活用の促進</b></p>	
人材育成	<p><b>事業活動を推進する人材への投資</b></p>	

※1 出典：エレンマッカーサー財団「Completing the picture: How the circular economy tackles climate change」  
 ※2 エレン・マッカーサー財団：サーキュラーエコノミーへの移行加速をビジョンとして2010年にイギリスで発足した組織。設立以来、情報発信による啓発活動や、国を超えたグローバルネットワークの構築など、多岐にわたる活動を行う。  
 ※3 出典：環境省「第四次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第2回点検及び循環経済工程表に関する参考資料集」  
 ※4 グリーンマテリアル：温室効果ガスの発生がない、もしくは、発生量が極めて少ない方法で地上資源(廃棄物)から作られる素材(再生原料・再生材料)

# 価値創造プロセス

ミッションステートメント

## 持続可能社会実現の一翼を担う

エンビプログループが世の中に存在する意義であり、2050年までの目的・志

マテリアリティ(重要課題)

- サプライチェーンにおけるグリーンマテリアルの需要増加 ▷P8へ
- 生産プロセスにおける省人化、事業活動におけるデータ活用の促進
- 事業活動を推進する人材への投資

インプット

(2023年6月期実績)

**財務資本**

- 資産合計 **336 億円**
- 自己資本比率 **48.6 %**

**製造資本**

- グループ会社数 **14 社**
- 国内工場拠点 **12 拠点**
- 船積拠点 **13 拠点**
- 海外拠点 **4 拠点**
- 設備投資額 **46 億円**

**知的資本**

- 特許保有件数 **19 件**
- 研究室拡張

**人的資本**

- 連結従業員数 **632 人**

**自然資本**

- リサイクル率 **94.3%**
- 再生可能エネルギー電力 **86.5%**
- CO<sub>2</sub>排出量削減 **50.1%**

## ビジネスモデル

戦略コンセプト

### サーキュラーエコノミーをリードする



モノづくりを支えるCE      地域を支えるCE

当社グループが先導して日本全体にサーキュラーエコノミーの機運を高め、持続可能社会実現の一翼を担っていく

エンビプログループの強み

● 企業文化

● 発想力

● 技術力

● 営業力

● 販売力

● 生産力

● 物流力

● 回収力

資源循環事業

グローバルトレーディング事業

リチウムイオン電池リサイクル事業

その他 障がい福祉サービス事業  
環境経営コンサルティング事業

成長基盤

経営基盤 ▷P42へ

組織イメージ：創発的能力を備えた自律した個人の規律ある集団 ▷P38へ

企業理念：最も大切にする価値観でありDNA[時間軸無し] ▷P3へ

中期経営計画(中計2028)の目標

**財務資本** ▷P10へ

- 売上高 **800 億円**
- 経常利益 **50 億円**
- ROE **13.0%**
- ROIC **9.0%**  
(2028年6月期目標)

**製造資本**

- 投資額 **200 億円**
- LIBリサイクル事業
- 新技術導入
- DX推進
- 環境整備 ▷P39へ
- M&A 等

**知的資本**

- 新技術開発
- 研究室拡張

**人的資本**

- 事業推進 ▷P37へ
- 人材創出 **100 人**
- 多様性推進 ▷P38へ

**自然資本**

- 2030年RE100 ▷P31へ
- 2050年カーボンニュートラル

提供価値

社会的価値

経済的価値

環境的価値

**自然環境**

- 脱炭素社会の構築に貢献

**地域社会**

- 地域資源循環施設の展開
- 雇用と就労の課題解決

**取引先**

- 脱炭素社会における様々なニーズに安心・安全に対応

**従業員**

- 多様な人材が生き生きと働ける場の提供

**株主・投資家**

- 持続的な成長による株主還元の実現